令和６年度　幼児教育研修（年齢別担任研修３歳児・第１回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
日時：令和６年５月１４日（火）１５：００～１７：００
会場：足立区勤労福祉会館
講師：東京都立大学　　准教授　田中　浩司　氏

3歳児の特徴

3歳児の子どもたちは、どのような世界をみているのだろうか
3歳児のトラブルの向こう側にどのような思いがあるのだろうか

■■自我の育ち■■

「幼児への入り口」

進級の喜びと不安が入り交じる4月。
一人の男児は、クラスのほとんどの子がテラスで遊ぶ中、部屋から出なかった。
　保育者は男児と一緒に今まで過ごした2歳クラスの部屋を見にいった。着替えが入っていた箱には、もう別の子の服が入っているのを目にした。

ポイント
2歳児に気持ちを残したまま、新しい生活が始まる子どももいるため、配慮していく。

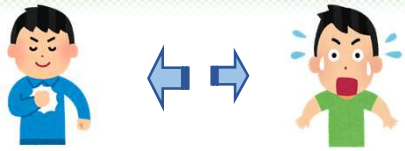
「保護者の不安と子どもの不安」

子どもたちが少しずつ園生活に慣れ始めた5月。
4月当初は笑顔で登園していた女児は、母親に抱かれて登園してくる。母も子も不安をため込んでいる。

ポイント
保護者の不安が現れた言葉は、共感しているようにみえて、子どもに不安を投影している。「大丈夫だった？」といった言葉がけは、「大丈夫じゃない」を想起する。

「思いと現実との間で戸惑う姿」

走り回って遊んでいた子どもたちが、1メートルほどの高さの石柱を見付けるとよじ登り始めた。
月齢の高い6人は保育者の手助けなしに飛び降りたが、一人だけ一度保育者の手を持って跳んだ後は寄り付かず、他の遊びをしていた。



ポイント
3歳児は先を見通す力が付いてくることにより、無鉄砲な行動がおさまってくる。一方で、上手くいかないかも知れないという不安や落ちるかもという恐れが生まれる。

■■3歳児の自我を大切にするために■■

意欲を引き出す言葉がけをする
～大きくなる自分を意識していけるような言葉がけを大事にする～

子どもがルールを発見できる言葉がけをする
～過程を大切に、子どもと一緒に考えていくことを大事にする～

■3歳児の姿 と ◇保育者の援助

認識と言葉

■「これなに？」と質問し、新たな名称を覚えていく他に、分かっていることを証明するために聞く姿がある。

◇倫理的構造を丁寧に伝えていく。

■「どうして？」「いつ？」などの質問が増えコミュニケーションの中で語彙が豊かになる。

◇生活経験やボリューム感が知的発達に繋がっていくことを意識する。

■大小、長短といった対になる概念を獲得する。
絵本を通じて、曖昧に使っている言葉の意味を深めていく。

◇子どもがどのような絵本に関心をもっているか、耳を傾けてみる。
読み聞かせの中で、子どもたちが「こんなことしているのか」と内容がわかるものを選書する。

表現と技能

■真似る力が高まる。始まりと終わりがわかるようになり、きれいな円を描けるようになったり、人物画がかけるようになったりする。

◇いろいろな世界が見え始め、心の中に描かれてくる。「自分は描けるんだ」と自信をもってたくさん描画できる環境を用意する。

■複合的な操作ができるようになり、表現の世界が広がっていく。

◇はさみを操作しながら、逆の手で紙を回転させられるようになるなど、二つのことが同時にできるようになる。
やりたいことが実現できるようにする。

■リズムに合わせて動き回るなど、身体をコントロールできるようになる。

◇意識的に自分の身体を捉えられるようになる。安全に配慮し活動の広がりを見守る。

子ども同士の関わり

■3歳児のコミュニケーション力では、子どもたちの遊びのイメージ、思いにズレが生じる。

◇保育者は、どのような思いで遊びが展開しているかを読み取り、子どもの思いをつないでいく。言葉だけでズレを埋めようとすると、子どもの気持ちは置いてきぼりになるので、配慮が必要である。

■友達への憧れから同じ髪型、同じ服装を真似てみたくなる。

◇保育者は、憧れが原動力になり気持ちが強くなっていくことを理解し、子どもたちが周囲に関心がもてるような言葉がけをしていく。

■幼児クラスになった不安を「仲間への憧れ」で埋めようとする姿もある。

◇保育者は、不安と憧れを区別し、子どもたちの関係性を知る必要がある。

研修生の報告書より

3歳児の自我を大切にするために、大きくなる自分が意識できるような意欲を引き出す言葉がけをしたり、生活の中でルールを発見していけるように一緒に考えたりしていく。また、自分の意見が大切にされていることを伝えていくことが大切だと学んだ。

ジブンの表明としての「こだわり」、思いと現実の間で戸惑う姿など、クラスの子どもたちの姿と一致した。大人としては困る姿も、喜ばしい育ちであることを保護者にも発信したいと感じた。